

夏の元気な虫！

花島 伸美（千葉市）

開催日：2019 年 8 月 11 日（日） 10 時～12 時 天候：晴

参加者：33 名（大人 15 名、子ども 18 名）、指導員 5 名

担当指導員：佐野由輝、花島伸美

毎年8月の定例観察会は「虫」をテーマにしたものが多い。今年は、セミ・バッタ・トンボを中心に移動距離を短くして 低年齢児への配慮と熱中症予防を考慮に入れてコースを設定した。当日は 33 名もの参加者があったが、小学生と幼児の兄弟や姉妹も数組いた。先ず、受付隣のテーブルでセミの抜け殻6種類を容器に分け、検索表や成虫の写真も見せて、セミの抜け殻が種類によって違うことを知ってもらい、導入とした。

(セミの観察) 集合場所近くのクヌギの木1本の周りにどのくらいのセミの穴があるか見つけてもらった。見つけたら竹串に赤いビニールテープの印を付けた旗を差してもらった。程なく 100 本の旗が穴に差し込まれた。(写真参照) 地面にたくさんのセミの穴があることが一目瞭然で、木から5mも離れたものもあった。そこから出てきたセミの幼虫はどこへ行ったか？ 今度はセミの抜け殻探し。兄弟・親子で高い木の上や低木の中を探し回り、配布したビニール袋に抜け殻が次々に入っていく。そして抜け殻を観察した。子ども達は 鋭い爪で穴を掘り、ストローのような口で木の汁を吸うというセミの幼虫の特徴を発見した。そして、セミの抜け殻から出る白い糸が何であるか、セミの抜け殻を熱湯でふやかして背中をハサミで切り開いた状態のものを一つずつ配り、虫眼鏡で気門と気管を見てもらった。セミの抜け殻の内側を初めて見る人も多く感心していた。



(バッタの観察) すぐ下の草地へ進むと、参加者たちはすぐにバッタ捕りを始めた。名前を知りたい子ども達には検索表(『バッタのオリンピック』(福音館書店)からコピー)を用い一緒にバッタの種類を特定した。ショウリョウバッタ・オンブバッタ・クルマバッタモドキがよく捕獲できた。その後、参加者全員で輪になって真ん中にある白いシートに向かい虫を追い込んでみたが、今までの虫捕りで虫が散ったせいかシートの中には入らなかった。

(トンボの観察) 杉林を抜け、階段を下り中菖蒲田へ向かう。みんなが期待していたオニヤンマはいなかったが、チョウトンボ・オオシオカラトンボ・シオカラトンボ・マユタテアカネ・ノシメトンボ・アオモンイトトンボを子ども達が自分で捕って喜んで見せてくれた。

(課題) 参加者の感想は色々な虫に出会えて良かったというのが多かった。今回指導員が 5 名と少ない中で参加者がよくついてきたと思う。セミの捕獲は難しいが、抜け殻探しは幼児にもでき、木陰のできるので体への負担は少ないと思った。小学生はもっと虫を捕りたいし体力もあるが、幼児にとっては2時間の観察が限界だと思った。1時間半の観察会でも良かったのでは…という意見も出た。